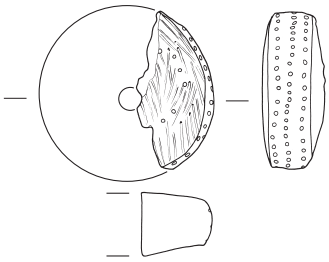
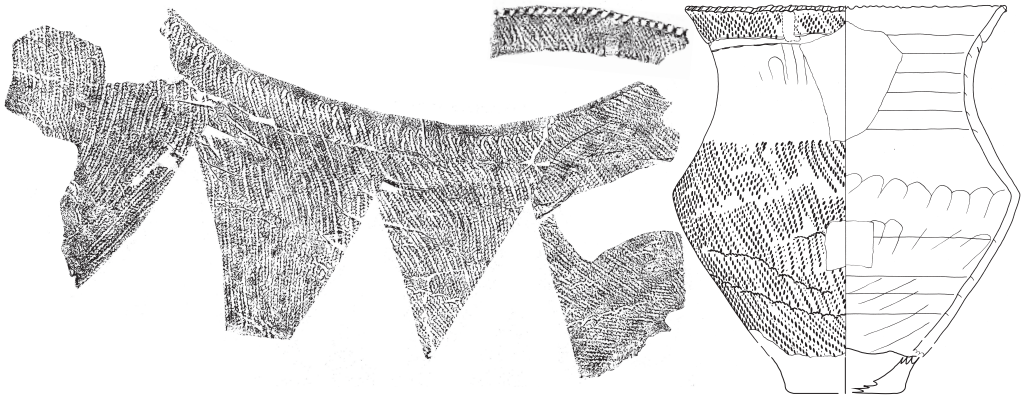
千 葉 県 八 千 代 市

大 山 遺 跡 d 地 点

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―





平成３０年度

神 正 株 式 会 社
八 千 代 市 教 育 委 員 会

例　言

１．本書は，八千代市教育委員会が平成30年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成に伴うもので，事業者である神正株式会社の委託を受けて実施した。

２．調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査期間　平成30年６月５日～６月18日　面積323.2／2959.06㎡（担当：宮下聡史）

本調査期間　平成30年９月13日～10月12日　面積172㎡（担当：宮下）

本整理期間　平成31年１月７日～３月29日　（担当：轟　直行）

３．写真・図面等の調査資料および出土資料は八千代市教育委員会が保管している。

４．本書の編集・執筆は轟が行なった。

５．報告書の作成にあたっては峰村　篤氏からご支援を賜った。厚く御礼申し上げる。

凡　例

１．本書における遺構実測図の用例

（１）図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。

（２）遺構の縮尺率は以下のとおりである。

竪穴建物跡 1/80，炉跡セクション 1/40

（３）竪穴建物跡で検出された焼土をセクション図で示しているが，この範囲はあくまで検出されたおおよその層位を示したものであり，厳密なものではない。

２．本書における遺物実測図の用例

（１）縮尺率は次のとおりである。土器実測図 1/4，土器拓影図・土製品 1/3

（２）実測した土器については遺存範囲を表現した。

（３）口径・胴部最大径・底径の寸法を復元した場合は遺物観察表の数値を括弧で括った。

（４）胎土の観察にはデジタルマイクロスコープ（秀マイクロンプロ）を使用し，倍率 150 倍で観察を行なった。

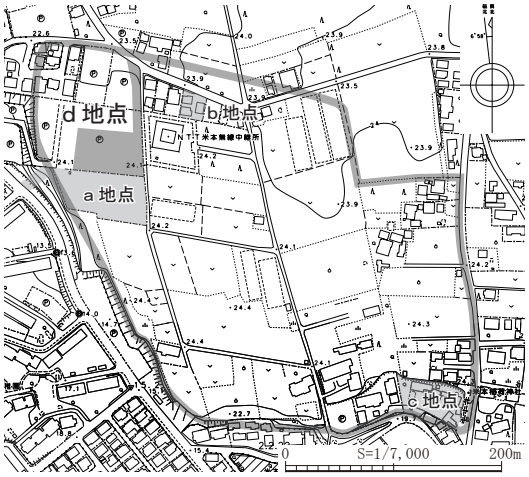
本　文　目　次

例　　言
凡　　例
本文目次
検出された遺構と遺物
報告書抄録

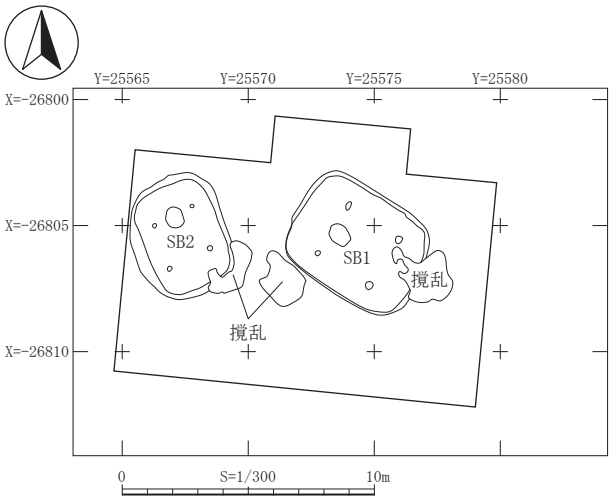
検出された遺構と遺物

１号竪穴建物跡

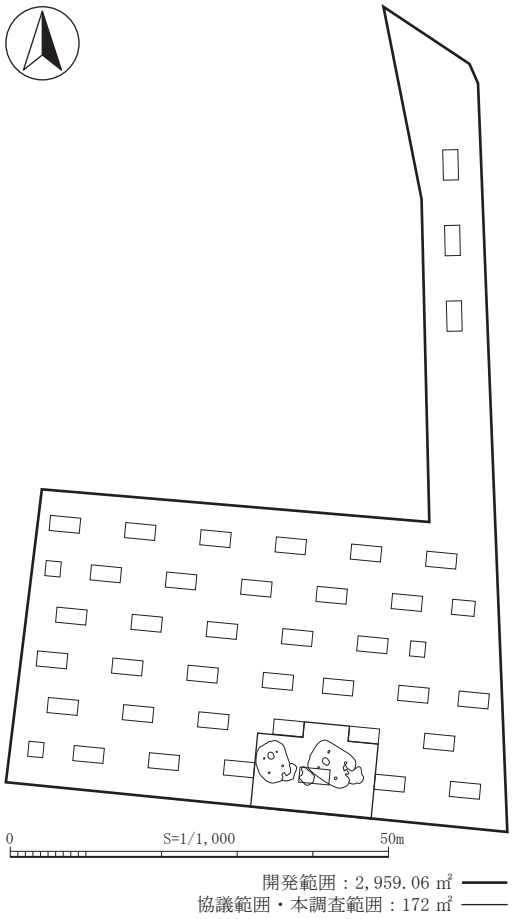
時期：弥生時代後期　**検出面**：ソフトローム層　**平面形態**：胴張角丸長方形　**規模**：長軸長 5.67m　短軸長 4.28m　深さ 0.54m　**構造**：炉が１基，ピットが４基検出された。ピットはいずれも柱穴と考えられる。炉の埋土２層では焼土層が確認された。　**出土遺物点数**：縄文土器 117 点，弥生土器 263 点，弥生時代土製品１点　**出土遺物重量**：縄文土器 969g，弥生土器 1302g，弥生時代土製品 40g　**遺物出土状況**：本遺構から出土した遺物のうち 133 点を測量で取り上げた。その結果，床面直上から出土した遺物はやや少なく，３層から出土した遺物はやや多い傾向を見出すことができた。第３図５は２号竪穴建物跡出土の土器と遺構間接合した。本遺構から出土した破片は埋土上層にあたる３層付近から出土し，２号竪穴建物跡は埋土中層から出土したことから，両遺構の埋土が堆積する過程で第３図５は投棄されたと考えられる。



大山遺跡の範囲と各調査地点

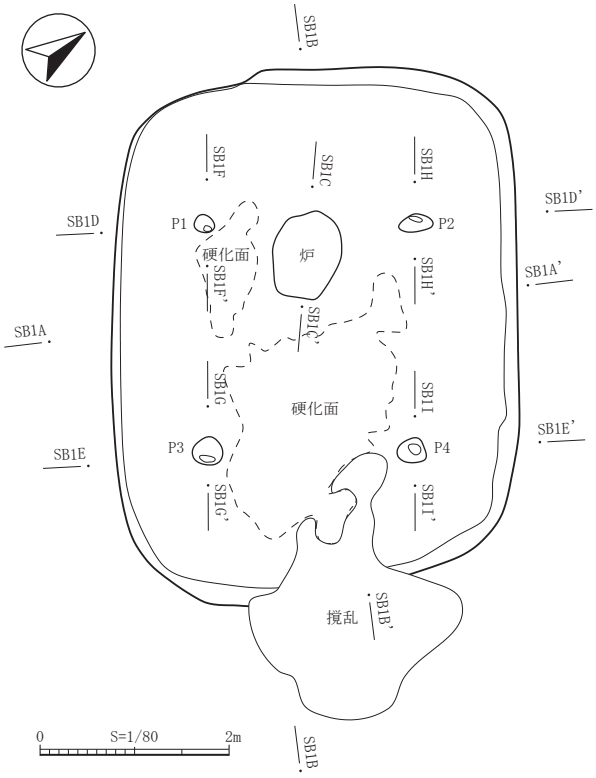


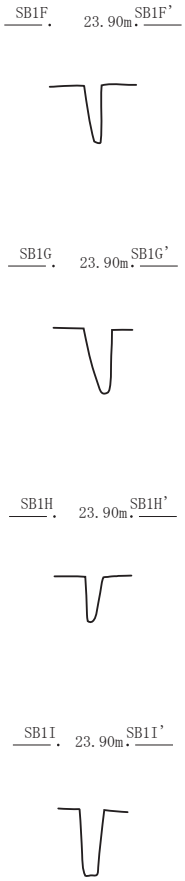
本調査で検出された遺構の位置



確認調査時のトレンチ配置・協議範囲・本調査範囲

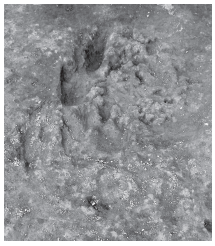
第１図　大山遺跡の範囲と各調査地点，確認調査・本調査全体図



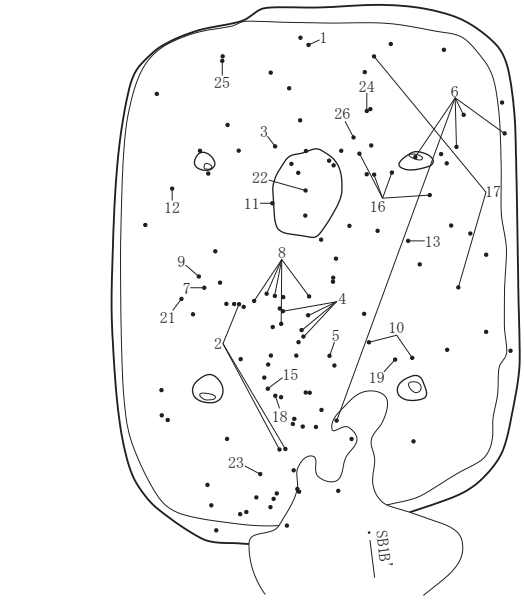


No.１出土状況（東から）

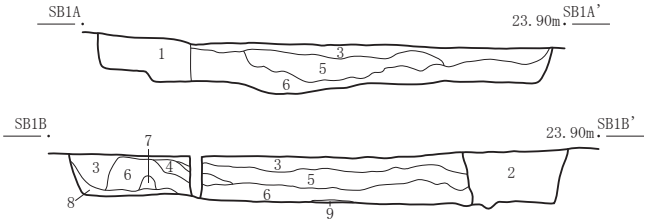
完掘（南西から）



炉跡完掘（南東から）



遺物出土状況

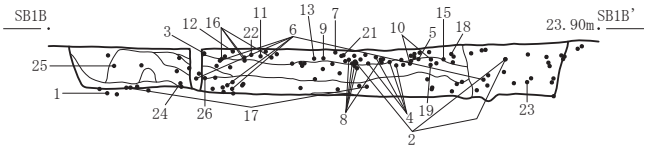


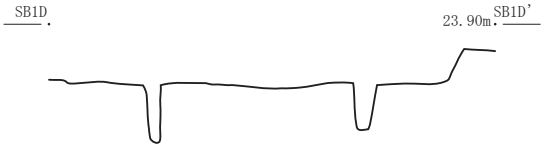
１号竪穴建物跡土層説明

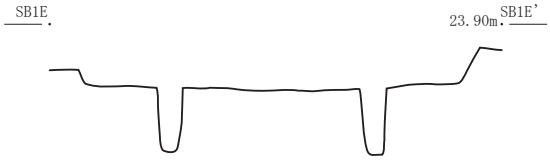
１層　確認調査時のトレンチ埋め戻し土
２層　撹乱土
３層　暗褐色土，しまりあり，粘性あまりなし，ローム粒混じる，１㎜以下の焼土，１～２㎜程度の炭化物混じる。
４層　黒褐色土，しまりあり，粘性なし，１～２㎜程の炭化粒子・焼土粒含む。
５層　黒～黒褐色土，しまりあり，粘性ややあり，ローム粒わずかに混じる，焼土粒・炭化物混じる。
６層　明暗褐色土，３・５層にくらべてしまりやや弱い，粘性あり，ローム土多く含む，２㎜程の焼土粒混じる。
７層　明暗褐色土，しまり６層よりやや弱い，ローム粒多く含む，焼土粒わずかに含む。
８層　褐色土，しまりあり，粘性あり，ハードローム塊混じる，焼土粒混じる。
９層　黄褐色土，しまりあり，粘性あり，ハードローム床。

１号竪穴建物跡炉跡土層説明

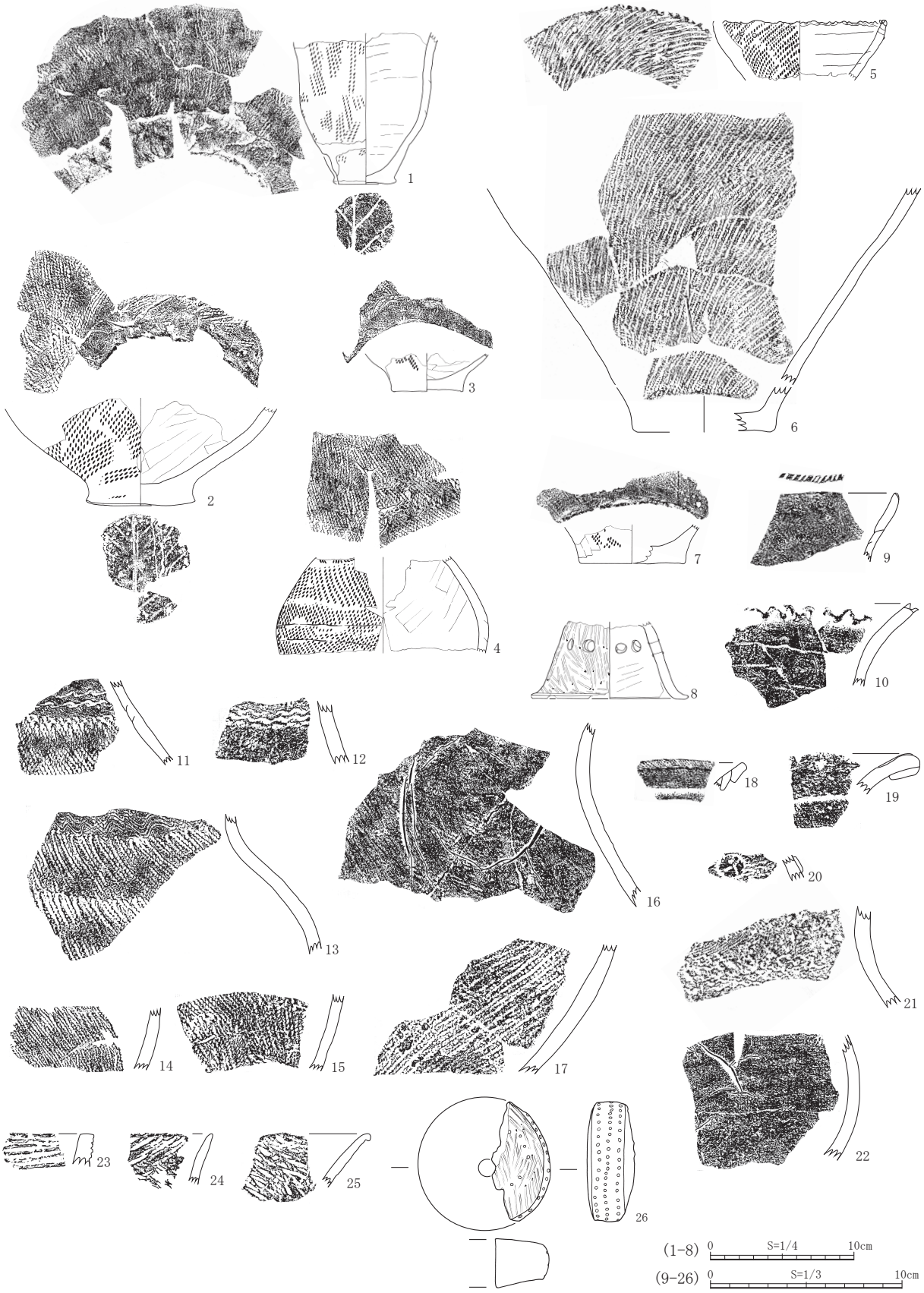
１層　暗褐色土，しまりややあり，粘性あり，焼土混じる。
２層　赤褐色土，しまりあり，焼土層。



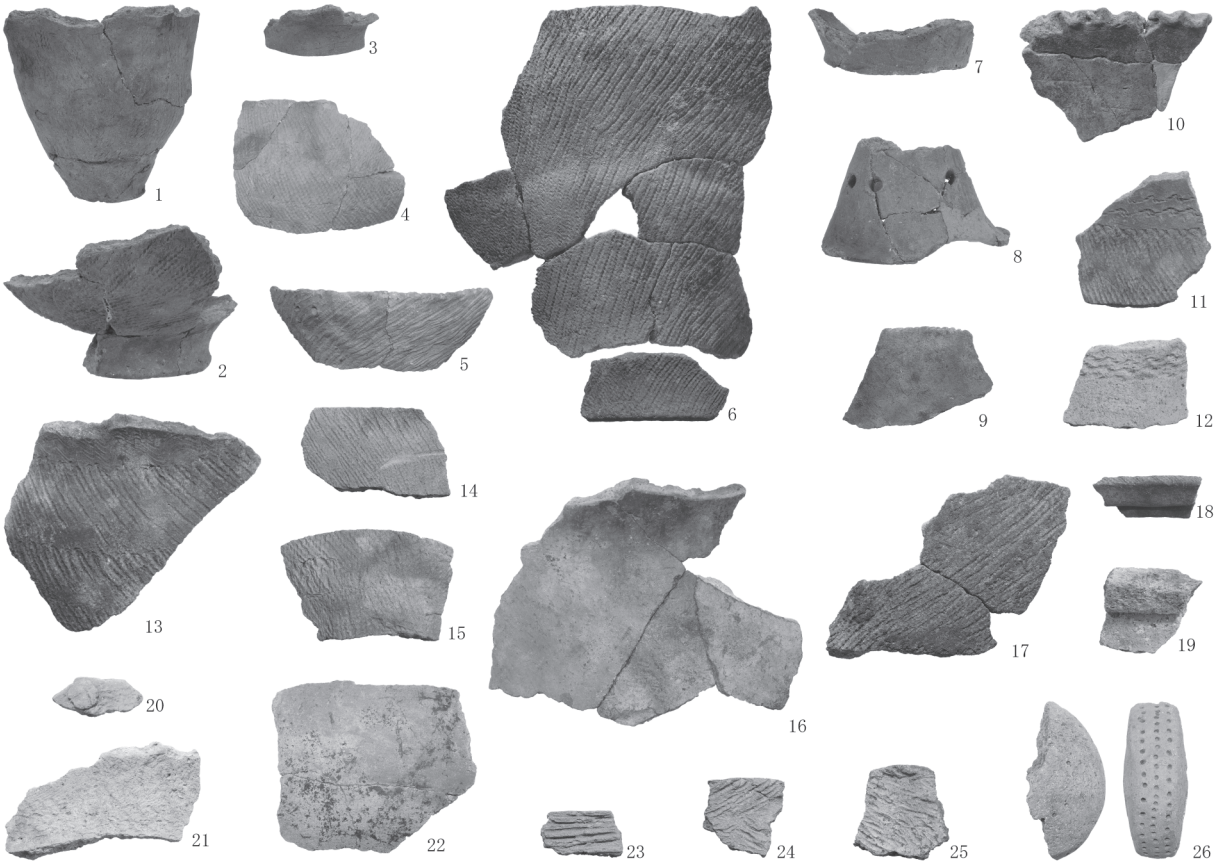




第２図　１号竪穴建物跡（１）



第３図　１号竪穴建物跡（２）



第４図　１号竪穴建物跡（３）

遺物：第３図８は弥生時代終末期～古墳時代前期前半の高坏の脚部であるため，遺跡内に当該期の遺構が存在することを示唆していると考えられる。第３図 12・19 ～ 22 は南関東系の壺と考えられる。胎土に着目すると，第３図６の胎土には大粒の石英が含まれており，胎土の特徴は明らかに他の土器と異なる。また，第３図 19 も胎土にシャモットが含まれており，他の土器とは異なる特徴が認められる。その他には縄文時代前期後半の黒浜式土器の破片，縄文時代前期末～中期初頭に位置づけられる土器片が出土した。

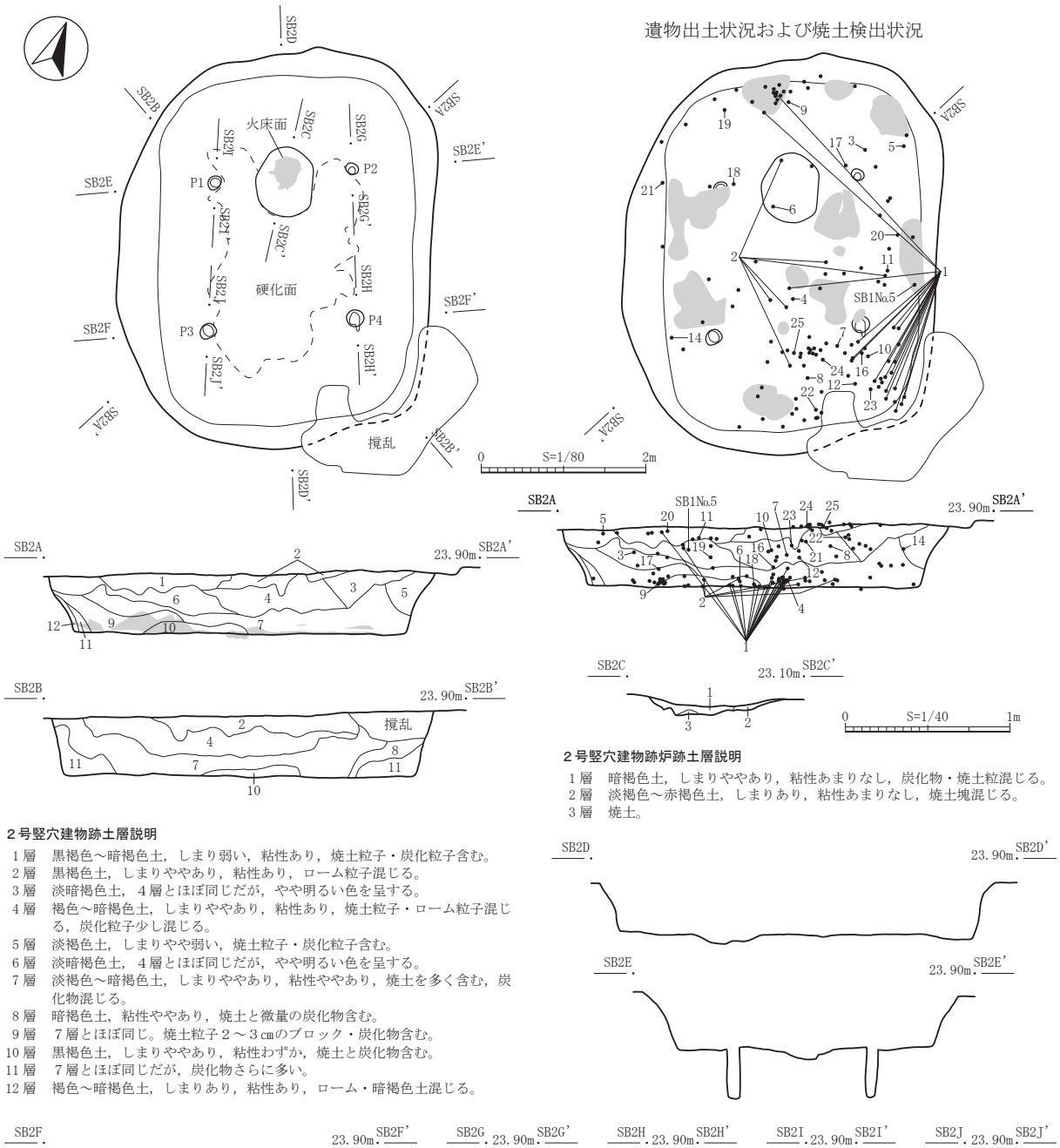
２号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期　**検出面**：ソフトローム層　**平面形態**：胴張角丸長方形　**規模**：長軸長 4.80m　短軸長 3.81m　深さ 0.77m　**構造**：炉が１基，ピットが４基検出された。ピットはいずれも柱穴と考えられ，とくにＰ４は南東側がオーバーハングするように掘り込まれていた。炉の埋土３層は焼土層であった。　**炭化材の出土状況および焼土検出状況**：本遺構の床面直上から多量の炭化材の出土と広範に焼土が確認された。調査期間の都合上，炭化材の検出状況に関する図面の作成はできなかったが，Ｐ１・Ｐ３で炭化した柱が確認され，さらに梁・桁の木材が焼けて崩れたような炭化材などが出土したことから，本遺構は上屋構造が残った状態で焼けたと考えられる。**出土遺物点数**:縄文土器 84 点，弥生土器 227 点，奈良･平安時代土師器 13 点，奈良・平安時代須恵器 18 点　**出土遺物重量**：縄文土器 575g，弥生土器 1219g，奈良・平安時

第１表　１号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器・土製品									
遺物No.	型式・時期 器種	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
1	弥生後期 甕	胴～底部 遺存率 70%	底　径：4.4 ㎝ 遺存高：10.5 ㎝	外面：橙色 (7.5YR6/6)，黒斑 内面：橙色 (7.5YR6/6)，黒斑	外面：撚糸文 L 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	床面直上	木葉痕あり，被熱によると思われる剥落が内面顕著
2	弥生後期 甕	胴～底部 遺存率 30%	底　径：7.4 ㎝ 遺存高：7.4 ㎝	外面：橙色 (7.5YR7/6)，にぶい褐色 (7.5YR6/3) 内面：灰褐色 (7.5YR5/2)	外面：直前段多条 LR 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：コゲ付着	埋土	木葉痕あり
3	弥生後期 甕	胴～底部 遺存率 70%	底　径：5.0 ㎝ 遺存高：2.7 ㎝	外面：明赤褐色 (5YR5/6)，黒斑 内面：明褐色 (7.5YR5/8)	外面：直前段多条 LR，指オサエ 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
4	弥生後期 甕	胴部 遺存率 20%	胴部最大径：(14.8) ㎝ 遺存高：6.6 ㎝	外面：明赤褐色 (2.5YR5/8)，黒斑 内面：赤褐色 (2.5YR4/8)，黒斑	外面：直前段多条 RL 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
5	弥生後期 浅鉢	口縁～胴部 遺存率 40%	口　径：(12.0) ㎝ 遺存高：4.1 ㎝	外面：橙色 (7.5YR6/6)，黒斑 内面：明黄褐色 (10YR6/6)	外面：LR+R・R，口唇部に縄文原体による押捺 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	2号竪穴建物跡出土土器と遺構間接合
6	弥生後期 甕	胴～底部 遺存率 10%	底　径：(10.0) ㎝ 遺存高：16.9 ㎝	外面：にぶい黄褐色 (10YR5/4)，橙色 (5YR6/8) 内面：黄橙色 (7.5YR7/8)	外面：RL+L・L，LR+R・R 内面：剥落により不明	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	大粒の石英を多量含む
7	弥生後期 甕	底部 遺存率 40%	底　径：(7.4) ㎝ 遺存高：2.7 ㎝	外面：明赤褐色 (5YR5/6) 内面：明赤褐色 (5YR5/6)	外面：直前段多条 RL，ヘラナデ 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：コゲ付着	埋土	
8	弥生終末期 ～ 古墳前期前半 高坏	脚部 遺存率 70%	底　径：11.0 ㎝ 遺存高：5.4 ㎝	外面：橙色 (2.5YR6/6)，黒斑 内面：橙色 (2.5YR6/6)，黒斑	外面：ミガキ，2個1対の透穴が3単位になると考えられる 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
9	弥生後期 甕	口縁～頸部 破片	－	外面：灰黄褐色 (10YR4/2)，浅黄橙色 (7.5YR8/6) 内面：橙色 (7.5YR7/6)，灰褐色 (7.5YR5/2)	外面：指ナデ，口唇部にヘラによる押捺 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	
10	弥生後期 甕	口縁部 破片	－	外面：灰褐色 (7.5YR4/2) 内面：にぶい橙色 (7.5YR6/4)，橙色 (7.5YR6/6)	外面：ヘラナデ，口唇部に指頭による押捺 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	
11	弥生後期 甕	肩部 破片	－	外面：灰黄褐色 (10YR4/2) 内面：にぶい赤褐色 (5YR5/3)	外面：ヘラナデ，S 字状結節文，直前段多条 RL 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：コゲ付着 内面：なし	埋土	被熱によると思われる剥落が内面に認められる
12	弥生後期 壺	肩部 破片	－	外面：橙色 (7.5YR7/6)，赤彩 内面：橙色 (5YR6/6)	外面：S 字状結節文 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	摩耗によって外面の調整は判断つかず
13	弥生後期 甕	肩部 破片	－	外面：褐灰色 (7.5YR4/1) 内面：にぶい褐色 (7.5YR5/3)，橙色 (7.5YR7/6)	外面：5本1単位の櫛描波状文，RL+L・L 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：コゲ付着	埋土	
14	弥生後期 甕	胴部 破片	－	外面：にぶい黄橙色 (10YR7/3)，黒斑 内面：橙色 (7.5YR7/6)	外面：直前段多条 RL 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内縁：コゲ付着	埋土一括	
15	弥生後期 甕	胴部 破片	－	外面：明赤褐色 (2.5YR5/6)，黒斑 内面：明赤褐色 (2.5YR5/6)，黒斑	外面：直前段多条 RL 内面：不明	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	内面は器面が荒れているため，調整不明
16	弥生後期 甕	頸～肩部 破片	－	外面：明黄褐色 (10YR6/6)，黒斑 内面：橙色 (7.5YR7/6)，黒斑	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	
17	弥生後期 甕	胴部 破片	－	外面：褐灰色 (10YR4/1) 内面：にぶい黄橙色 (10YR6/3)，橙色 (7.5YR6/6)	外面：LR ＋ R・R 内面：不明	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	床面直上	内面の調整は剥落著しく判別できず
18	弥生後期 甕	口縁部 破片	－	外面：黒褐色 (7.5YR3/1) 内面：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：指ナデ，口唇部に直前段多条 RL か？ 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
19	弥生後期 壺	口縁部 破片	－	外面：黄橙色 (7.5YR7/8) 内面：黄橙色 (7.5YR7/8)	外面：指ナデ，ミガキ 内面：ミガキ	シャモット， 角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
20	弥生後期後半 壺	肩部 破片	－	外面：橙色 (7.5YR6/8) 内面：橙色 (7.5YR6/8)	外面：S 字状結節文，円形浮文（×字に沈線施文） 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土一括	
21	弥生後期後半 壺	頸～肩部 破片	－	外面：橙色 (5YR6/6)，赤彩 内面：橙色 (7.5YR7/6)	外面:LR，S 字状結節文，ミガキ 内面:指ナデ，ヘラナデ，ミガキ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	外面の一部が剥落
22	弥生後期 壺	胴部 破片	－	外面：明黄褐色 (7.5YR7/6)，赤彩 内面：にぶい黄橙色 (10YR7.4)	外面：ミガキ 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	
23	縄文前期末 ～ 中期初 深鉢	口縁部 破片	－	外面：赤褐色 (5YR4/6) 内面：赤褐色 (5YR4/6)	外面：半裁竹管による条線 内面：ミガキ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
24	黒浜式 深鉢	口縁部 破片	－	外面：灰黄褐色 (10YR6/2) 内面：橙色 (7.5YR7/6)，灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：直前段半撚 LL，直前段半撚 RR 内面：指ナデ，ミガキ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	床面直上	
25	黒浜式 深鉢	口縁部 破片	－	外面：明黄褐色 (10YR7/6)，黒斑 内面：明黄褐色 (10YR7/6)，黒斑	外面：直前段半撚 RR 内面：指ナデ	角閃石， 石英，長石	外面；なし 内面：なし	埋土	
26	弥生後期 紡錘車	遺存率 40%	直　径：(6.9) ㎝ 厚　さ：2.4 ㎝	明赤褐色 (2.5YR)5/6	棒状工具による刺突，断片的なミガキ	角閃石， 石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	

代土師器 113g，奈良・平安時代須恵器 166g　**遺物出土状況**：342 点の出土遺物のうち，130 点を測量で取り上げた。その結果，遺物は床面直上から遺構確認面にかけてまんべんなく出土したことがわかる。本遺構出土でもっとも良好な形に復原された第６図１は床面直上から下層に



２号竪穴建物跡土層説明

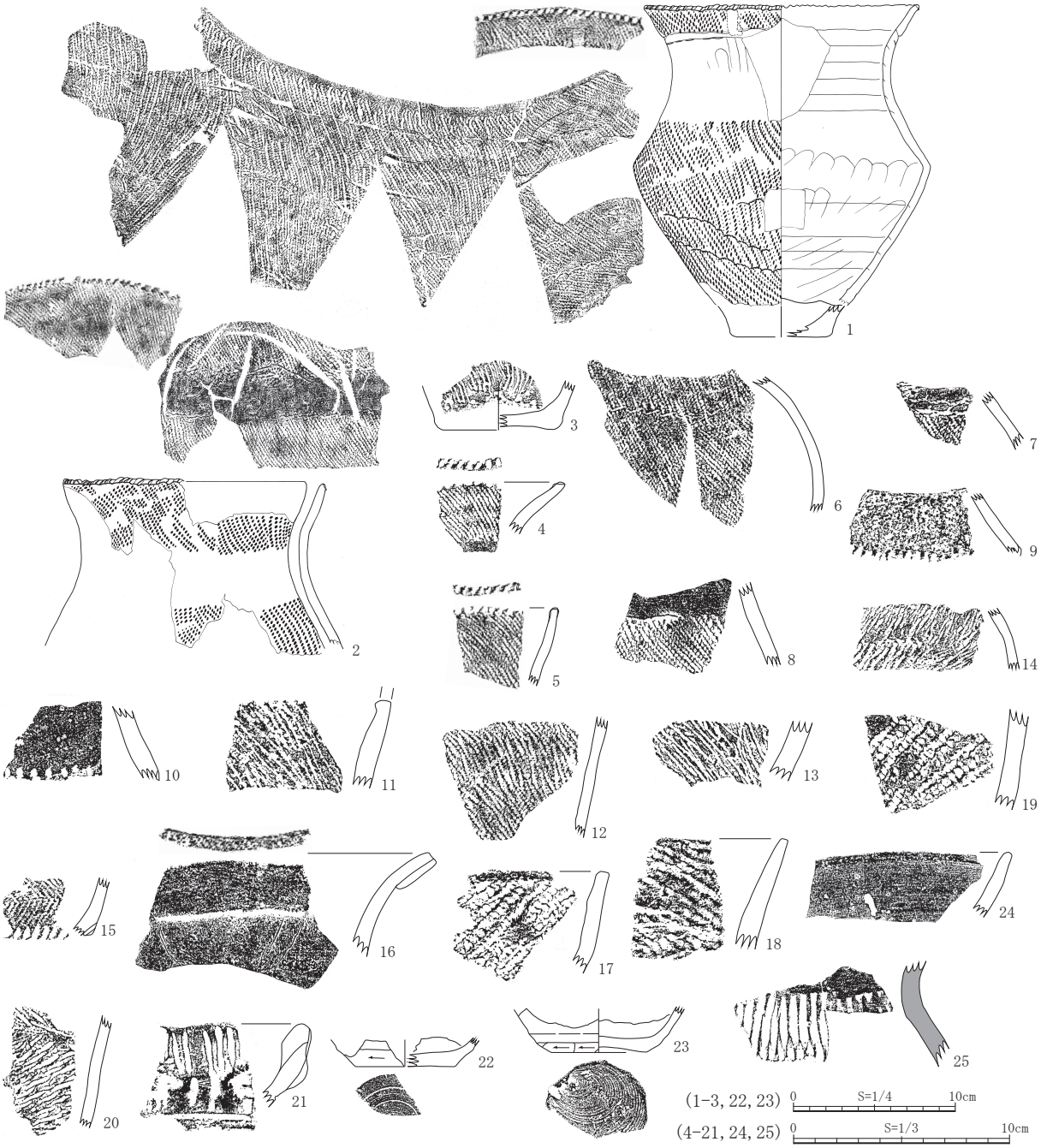
1 層　黒褐色～暗褐色土，しまり弱い，粘性あり，焼土粒子・炭化粒子含む。
2 層　黒褐色土，しまりややあり，粘性あり，ローム粒子混じる。
3 層　淡暗褐色土，４層とほぼ同じだが，やや明るい色を呈する。
4 層　褐色～暗褐色土，しまりややあり，粘性あり，焼土粒子・ローム粒子混じる，炭化粒子少し混じる。
5 層　淡褐色土，しまりやや弱い，焼土粒子・炭化粒子含む。
6 層　淡暗褐色土，４層とほぼ同じだが，やや明るい色を呈する。
7 層　淡褐色～暗褐色土，しまりややあり，粘性ややあり，焼土を多く含む，炭化物混じる。
8 層　暗褐色土，粘性ややあり，焼土と微量の炭化物含む。
9 層　７層とほぼ同じ。焼土粒子２～３㎝のブロック・炭化物含む。
10 層　黒褐色土，しまりややあり，粘性わずか，焼土と炭化物含む。
11 層　７層とほぼ同じだが，炭化物さらに多い。
12 層　褐色～暗褐色土，しまりあり，粘性あり，ローム・暗褐色土混じる。

２号竪穴建物跡炉跡土層説明

1 層　暗褐色土，しまりややあり，粘性あまりなし，炭化物・焼土粒混じる。
2 層　淡褐色～赤褐色土，しまりあり，粘性あまりなし，焼土塊混じる。
3 層　焼土。

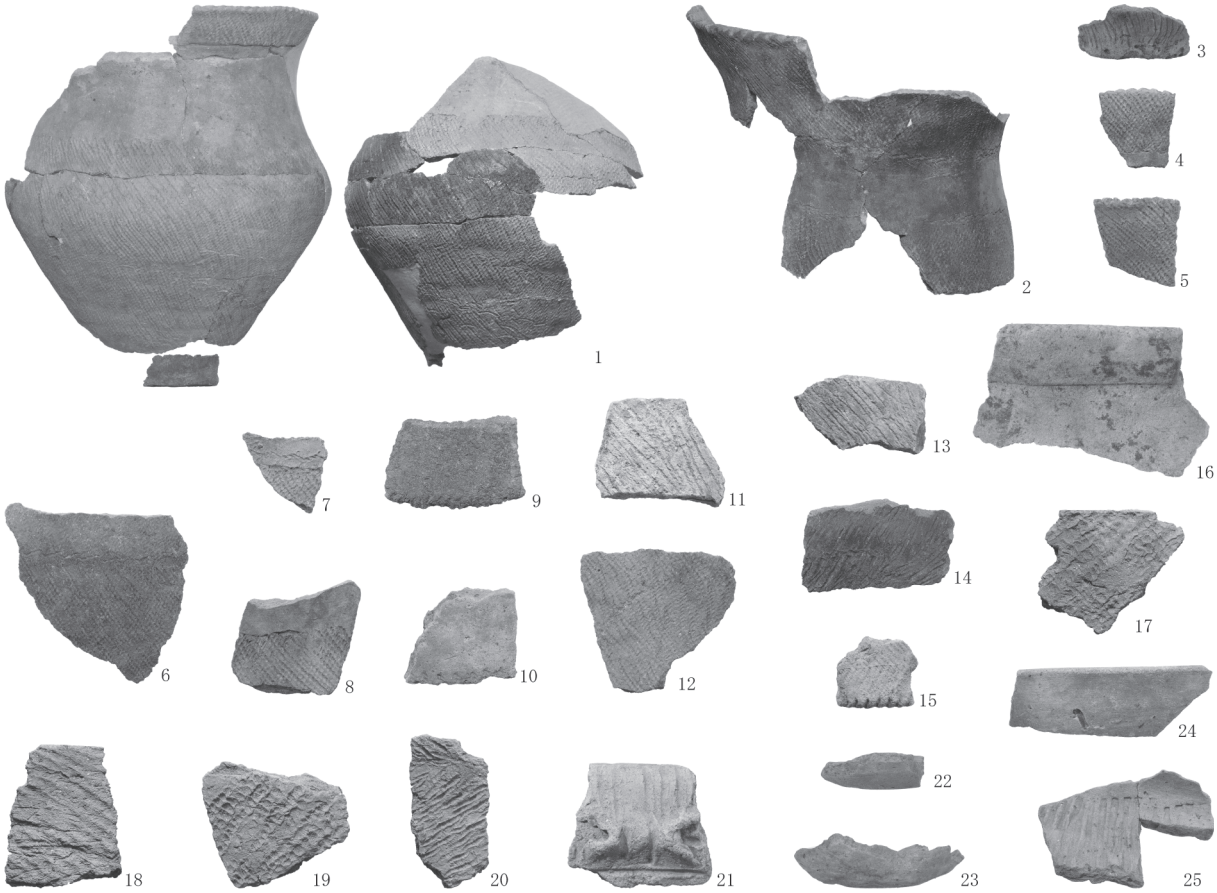
炭化物・焼土検出状況（南西から）　炉跡完掘（西から）　完掘（南西から）

第５図　２号竪穴建物跡（１）



第６図　２号竪穴建物跡（２）

かけて主に出土し，上層からも破片が出土した。また，それらの破片は本遺構の南東側にやや集中しつつ、まばらな状態であったことから，投棄の際に土器はすでにバラバラの状態だったと考えられる。床面直上付近の遺物は炭化材や焼土が検出された高さと変わらないものもあるが，いずれの土器も破片か、あるいは第６図１のように遺構内に散らばったような状況で出土した。このことから,本遺構でヒトが生活している最中に失火により焼失したと考えるよりも、建物としての機能が失われた後に焼失し，機能が失われた後の焼失前後に土器は投棄されたと考えられる。一方，奈良・平安時代に位置づけられる第６図 22 ～ 25 は埋土上層あるいは遺構



第７図　２号竪穴建物跡（３）

第８図　遺構外出土遺物

確認面付近で出土しており，本遺構は奈良・平安時代になっても未だ埋まりきらず，そこに奈良・平安時代の人々が土器を投棄したと考えられる。　**遺物**：第６図１は複合口縁が扁平・幅広で，棒状浮文が剥がれた痕跡も確認できることから弥生時代後期末に位置づけられる。また，胴部の縄文帯には縄を結び合わせた端部がＳ字状に現れている。第６図 11 は大粒の石英を多量に含む胎土が特徴的であり，その他の弥生後期の甕の胎土とは特徴が異なる。第６図 15 は南関東系の受口状口縁壺である。第６図 16 は南関東系に見られる胴部に文様を欠き，しばしばスス・コゲが付着するような広口壺と考えられる。第６図 17 ～ 20 は縄文時代前期後半の黒浜式土器，21 は縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器と考えられる。詳細な時期は不明だが，第６図 22 ～ 24 は奈良・平安時代の土師器坏と考えられる。第６図 25 は奈良・平安時代の下総でしばしば見られる橙色で焼きの悪い須恵器のタタキ甕である。

第２表　２号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器									
遺物No.	型式・時期器種	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
1	弥生後期末甕	口縁～底部遺存率 70%	口　径：(17.0) cm 胴部最大径：18.4 cm 底　径：(7.2) cm 推定高：20.4 cm	外面：橙色 (2.5YR6/6)，灰褐色 (7.5YR6/2) 内面：赤黒色 (2.5YR2/1)，褐灰色 (7.5YR4/1)	外面：RL+LL，ヘラナデ，指ナデ，口唇部に布目のあるキザミ 内面：ヘラナデ，指オサエ，指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：コゲ付着	床面直上 埋土	口縁部に棒状浮文を貼り付けた痕跡あり
2	弥生後期甕	口縁～胴部遺存率 40%	口　径：(15.0) cm 遺存高：(10.7) cm	外面：明黄褐色 (10YR6/6)，灰褐色 (7.5YR6/2) 内面：明黄褐色 (10YR7/6)，褐灰色 (7.5YR4/1)	外面：直前段多条 RL 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：コゲ付着	床面直上 埋土	
3	弥生後期甕	底部遺存率 25%	底　径：(7.6) cm 遺存高：2.7 cm	外面：褐灰色 (7.5YR6/1) 内面：明赤褐色 (5YR5/6)	外面：無節の撚糸文 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
4	弥生後期甕	口縁部破片	－	外面：にぶい黄色 (2.5Y6/4)，黒褐色 (10YR3/2) 内面：黄褐色 (2.5Y5/4)，黒褐色 (10YR3/2)	外面：直前段多条 RL，口唇部に布目のあるキザミ 内面：指ナデ	海綿骨針，角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：コゲ付着	埋土	
5	弥生後期甕	口縁部破片	－	外面：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内面：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：直前段多条 RL，口唇部に爪？によるキザミ 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
6	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：黒褐色 (7.5YR3/1) 内面：橙色 (7.5YR6/6)，黒斑	外面：直前段多条 RL 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	
7	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：橙色 (7.5YR6/6) 内面：橙色 (7.5YR6/6)	外面：S 字状結節文，直前段多条 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
8	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：橙色 (7.5YR6/6)，褐灰色 (7.5YR4/1) 内面：橙色 (7.5YR6/6)	外面：直前段多条 RL，指ナデ 内面：ヘラナデ	角閃石、石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
9	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：灰黄褐色 (10YR4/2) 内面：黒褐色 (10YR3/1)	外面：指ナデ，キザミ（工具不明） 内面：指ナデ	石英，長石	外面：なし 内面：なし	床面直上	被熱によると思われる剥落が外面に認められる
10	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：橙色 (5YR6/6) 内面：褐灰色 (5YR5/1)	外面：指ナデ，キザミ（工具不明） 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
11	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：浅黄橙色 (10YR8/4) 内面：明黄褐色 (10YR7/6)	外面：RL+L・L 内面：剥落により判別不可	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	大粒の石英を多量含む
12	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：橙色 (7.5YR6/6) 内面：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：直前段半撚 RR 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：コゲ付着	埋土	
13	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 内面：にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：撚糸文 L 内面：不明	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土一括	内面は器面が荒れているため，調整不明。大粒の石英を多量含む
14	弥生後期甕	胴部破片	－	外面：黒褐色 (7.5YR3/1) 内面：灰褐色 (7.5YR5/2)	外面：直前段半撚 LL 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	
15	弥生後期後半壺	口縁部破片	－	外面：浅黄橙色 (7.5YR8/6) 内面：橙色 (5YR6/6)	外面：LR，RL，縄によるキザミ 内面：指ナデ，ミガキ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土一括	
16	弥生後期広口壺	口縁～頸部破片	－	外面：明黄褐色 (10YR6/8)，黒斑 内面：明黄褐色 (10YR6/6)，黒斑	外面：指ナデ 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：なし	埋土	被熱によると思われる剥落が内面に認められる
17	黒浜式深鉢	口縁部破片	－	外面：明赤褐色 (5YR5/6)，灰褐色 (5YR4/2)，黒斑 内面：明赤褐色 (2.5YR5/6)	外面：LR 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	繊維含む
18	黒浜式深鉢	口縁部破片	－	外面：橙色 (5YR6/6) 内面：橙色 (5YR6/6)	外面：直前段半撚 RR 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	繊維含む
19	黒浜式深鉢	口縁部破片	－	外面：明赤褐色 (5YR5/6) 内面：明赤褐色 (2.5YR5/6)	外面：LR 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
20	黒浜式深鉢	胴部破片	－	外面：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内面：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：直前段半撚 LL 内面：縦方向ミガキ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	繊維含む
21	五領ヶ台式深鉢	口縁部破片	－	外面：浅黄橙色 (10YR8/4) 内面：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：沈線，隆帯 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
22	奈良・平安土師器坏	胴～底部遺存率 20%	底　径：(6.2) cm 遺存高：1.8 cm	外面：橙色 (7.5YR7/6) 内面：橙色 (7.5YR7/6)	外面：ロクロびき，回転ヘラケズリ，回転ヘラ切り	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
23	奈良・平安土師器坏	胴～底部遺存率 40%	底　径：6.1 cm 遺存高：2.8 cm	外面：橙色 (7.5YR7/6) 内面：橙色 (7.5YR7/6)	外面：ロクロびき，回転ヘラケズリ，回転糸切り 内面：ロクロびき	角閃石，石英，長石	外面：スス付着 内面：コゲ付着	埋土	被熱によると思われる剥落が内面に認められる
24	奈良・平安土師器坏	口縁部破片	－	外面：橙色 (7.5YR7/6)，橙色 (2.5YR6/8) 内面：橙色 (7.5YR7/6)	内外面：ロクロびき	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	埋土	
25	奈良・平安須恵器甕	胴部部破片	－	外面：黄橙色 (7.5YR7/8) 内面：黄橙色 (7.5YR7/8)	外面：タタキ目 内面：指ナデ，指オサエ	角閃石，石英，長石	外面；なし 内面：なし	埋土	

第３表　遺構外出土遺物観察表

土器									
遺物No.	型式等器種	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
1	五領ヶ台式深鉢	胴部破片	－	外面：灰褐色 (7.5YR5/2) 内面：灰褐色 (7.5YR5/2)，赤褐色 (5YR4/6)	外面：隆帯，沈線 内面：指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	1 号竪穴建物跡の撹乱	
2	加曽利E式深鉢	胴部破片	－	外面：明赤褐色 (2.5YR5/6) 内面：明赤褐色 (2.5YR5/6)	外面：LR，指ナデ 内面；指ナデ	角閃石，石英，長石	外面：なし 内面：なし	包含層	

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし　おおやまいせきでぃーちてん
書名	千葉県八千代市　大山遺跡d地点
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	轟　直行
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地2　　TEL 047(483)1151　代表
発行年月日	西暦2019年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおやまいせきでぃーちてん 大山遺跡d地点	よなもとあざおおやま 米本字大山 2380 番 53，54，55の各一部，2380番 26，93，94	12221	182	35度 45分 30秒	140度 06分 57秒	2018. 9.13 ～ 2018.10.12	172㎡ （上層）	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大山遺跡d地点	包蔵地 集落跡	縄文時代 弥生時代 奈良時代 平安時代	弥生時代後期 竪穴建物跡2棟	縄文土器，弥生土器，弥生時代土製品，奈良・平安時代土師器・須恵器	

要約

今回の調査では 865 点の土器，そして1点の土製品が出土し，それぞれの重量は 5.368 kg，0.04 kgであった。内訳は縄文土器が 265 点で 2.155 kg，弥生土器が 563 点で 2.893 kg，弥生時代土製品が1点で 0.04 kg，奈良・平安時代土師器が 18 点で 0.15 kg，奈良・平安時代須恵器が 19 点で 0.17 kgとなる。

遺構としては弥生時代後期に位置づけられる竪穴建物跡が2棟検出され，とくに2号竪穴建物跡は炭化材の検出状況から焼失建物跡と考えられる。確認調査時にこれらの遺構よりも北側に竪穴建物跡は検出されなかったこと，そして，本調査区の南側に接する a 地点で弥生時代後期の竪穴建物跡が複数確認されたことから，今回の調査で本遺跡における弥生時代後期集落の北限が明らかになった可能性がある。

一方，遺構に伴うものではなかったが，縄文時代前期後半の黒浜式土器，同中期初頭の五領ヶ台式土器が出土した。とくに五領ヶ台式土器・加曽利E式土器については本遺跡から始めて出土したもので，これらの時期に本地点でヒトが活動していたことを示唆している。同じく遺構に伴わなかったが，奈良・平安時代の土器も本遺跡で初めて出土し，当該期に本地点で人々が活動していたことを示唆している。

千葉県八千代市　大山遺跡 d 地点

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　　平成31年３月29日

編　　集　　八千代市教育委員会　教育総務課

〒 276-0045　八千代市大和田 138-2

ＴＥＬ　047-483-1151（代表）

発　　行　　神正株式会社

印　　刷　　金子印刷企画